

30年以内発生確率 80%程度に上昇

政府調査委が更新

南海トラフ巨大地震

政府の地震調査委員会は17日までに、過去に長期評価を行った地震について、30年以内の発生確率を1月1日現在で更新した。海溝型地震では、南海トラフ沿いでマグニチュード(M)8～9級の巨大地震が起きる確率が70～80%から80%程度に引き上げられた。

発生確率は想定する地震が起きない限り、時間の経過に連れて上昇する。毎年1月半ばに更新される。

千島海溝沿いの十勝沖で起きるM8・0～8・6程度の地震は10%程度から20%程度に更新。日本海溝沿いの「青森県東方沖および岩手県沖北部」で起きるM7・9程度の地震は10～30%から20～40%に、「宮城県沖の陸寄り」でのM7・4前後の地震は70～90%から80～90%に、それぞれ上がった。

内陸の活断層型地震では、新潟県の「長岡平野西縁断層帯」でM8程度の地震が2%以下から3%以下に更新され、3段階のランク分けで最も高い「S」に位置付けられた。